

リベリア
ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト
現地からのお便り

2016年2月
コンサベーション・インターナショナル

保全契約

前回のお便りで紹介した保全契約。私たちは、東ニンバ自然保護区の周囲に暮らす2つのコミュニティと、保全契約の下でどのような生計向上プロジェクトを提供するかについて相談を続けています。この保全契約をつくるプロセスは、時間のかかる、そして大事なプロセスです。

今回のお便りでは、ニンバ郡の他の6つのコミュニティと実施している保全契約の例についてご紹介したいと思います。この地域で行われている移動式の焼畑農業では、農業を続けるうちに土壌が痩せ、収量が下がってしまいます。そのため、新たな畑を作るために森が切り拓かれます。他方、水田での稲作は、長期にわたって沢山のお米が取れるため、森林伐採につながりにくい傾向にあります。先行している保全契約でも、水田での稲作を導入することによる農業の改善がコミュニティの生計向上プロジェクトとして選ばれ、既に成果を挙げています。現在、生計向上プロジェクトを計画中の2つのコミュニティでも、水田づくりが候補に挙がっています。

これからも、先行する周辺コミュニティとの取組でうまくいったこと、うまくいかなかったことをきちんとモニターし、「空気をはぐくむ森プロジェクト」で進めている2つのコミュニティとの保全契約の取組に活かしていきます。そして、長期的には、この地域にある20のコミュニティ全てと保全契約を結ぶというのが、大きな目的です。



水田完成の数ヶ月後の収穫の様子 ©Conservation International/photo by Liam Walsh



水田を作っている様子



先行する他コミュニティでのお米の収穫

©Conservation International/photo by Liam Walsh

東ニンバ山自然保護区の周りでの環境教育と普及啓発

劇団によるパフォーマンス、ラジオ番組、ニンバ郡の様々な場所での会合などを通じて続けてきた普及啓発活動。今期、さらなる環境に対する意識の強化を目指し、18の町で18日間にわたって劇団によるパフォーマンスを行うという大規模な活動を展開しました。ゾルパタという町での初日イベントには、600人以上が招かれました。

劇団は、稽古を繰返した後、歌や踊り、ストーリーテリングを通じて、移動式の焼畑農業といった非持続的な土地利用活動、狩猟、違法な漁業や小規模な採掘についてのメッセージを届けました。イベントは、大成功を収めました。保全契約の締結にむけ、機運がさらに高まることを願っています。



18の村の一つでの劇団によるパフォーマンスの様子

©Conservation International/photo by Edward Massaquoi